



上海事変と米國海軍の動靜

昭和七年三月
調査班

内閣書記

對島 和 言

上海事件の勃發に伴ひ、米國亞細亞艦隊の動員及其上海集中、米國聯合艦隊の布哇集中等は我が國民に多大の衝動を與へ中には日米海軍の衝突を危懼するものも少くないので、此間の事情を闡明して、彼らに疑心暗鬼を種々の要ふきを明にした。

一、米國亞細亞艦隊の上海集中

米國が亞細亞艦隊を比島から上海に急行集中せしめたのは上海附近の混乱に伴ひ米國市民の生命財産を保護せんが爲の當然の措置である。先年英國の上海出兵に際しても米國は上海に兵力を増加してゐる先例がある。

次に米國亞細亞艦隊の兵力は一万吨級巡洋艦一(飛行機四搭載)航空母艦一(一九二五噸)給炭船を臨時使用しあるものにして搭載飛行機十二、砲艦十一、驅逐艦十九、潜水母艦二、潜水艦十二、雜役艦四、其他十四に過ぎざるを以て、斯る少勢なる兵力を以て日本艦隊に挑戦するが如きこととはあり得ない。米國が日本に対して抗議せるが如きも一に上海方面の正しき認識を欠けるに基くもので、帝國が正當に行動し彼等の確益を犯さざる限り我が國軍行動の正當なる所以は漸次理解せらるることと信するものである。

又巷間米國海軍某高級將校が「米國艦隊の行動に反対するものはその相手を選ばず」と豪語し、暗に日本を脅威せりとの説を傳ふるものあるも、斯の如きは出所不明なる

一個人の言動に過ぎない。

三、布哇に於ける米國海軍の集中

最近米國艦隊が布哇に集中中なるを目して、上海事件に關連して西航しつつあるものと亦すものがあるか、此は左記の如き一九三二年度米國海軍大演習計畫に基き、其第一期演習を完結せんが為、合衆國艦隊の大部分を布哇に集中するものであつて、之に對して不快の予想を亦すは適當でない。

一九三二年度米國海軍大演習計畫の概要

一、主要行事、期間及場所

自二月六日 至三月三日	布哇攻陥演習	布哇沖
自三月八日 至三月三十一日	根據地獲得演習	加州沖
自三月九日 至五月十一日	艦隊戰術演習	加州沖

二

二、參加艦艇

一、駆艦九、大型巡洋艦四(或は八)以下、合衆國艦隊の大部

二、飛行機 二〇三

然るに我が言論界の一部に於ては、米海軍が布哇集中から一轉して西太平洋に進出して来ないかと考へて居るようであるが、日本海軍の現有勢力は主力艦に於てこそ三対五であるが、大型巡洋艦に於ては日九隻に對し米八隻で、其他航空母艦、輕巡洋艦以下に於ては彼我相拮抗し得るの情況であるから、西太平洋上に於ける我カ海軍力は今日の所では敢て危険でない。又米海軍としても演習の態勢から直に西太平洋に出動し得るものではない、之か為には多大の準備を要することを顧みれば、直に駆逐艦發射するか如く觀察することの正鵠を得ないことは明である。況んや米國政

府が實質的干涉の如きを好まざるに於て特に然りである。
本演習に關し米海軍當局も次の如く発表してゐる。

本演習に關し日本の某部分に誤解を起す虞ふしとし
しふい。蓋し第一次演習は日本より遠からざる海面に於
て舉行せられ而も時恰も滿洲事變の為日支間に紛争
を惹起せる時であるからである。然し乍ら本演習計畫
は既に久しき以前に為されありたるものなることに着相
するの要がある云々。

四、結言

滿洲事變以來特に上海事件勃發後、日米の關係は相
當緊張を來してゐるのは事實であるが緊張の結果過
敏となり、細事を過大視し、疑小べからざるを疑ひ、或は、
昂奮に趨らんとするの如きことあらば適當でない。吾人は

三

我が國民が事實を正視し、認識を正確にし、浮説に惑
はず大局を遠觀し、堂々たる大國民の態度を以て正義の
貫徹に邁進せねばならぬと確信する。

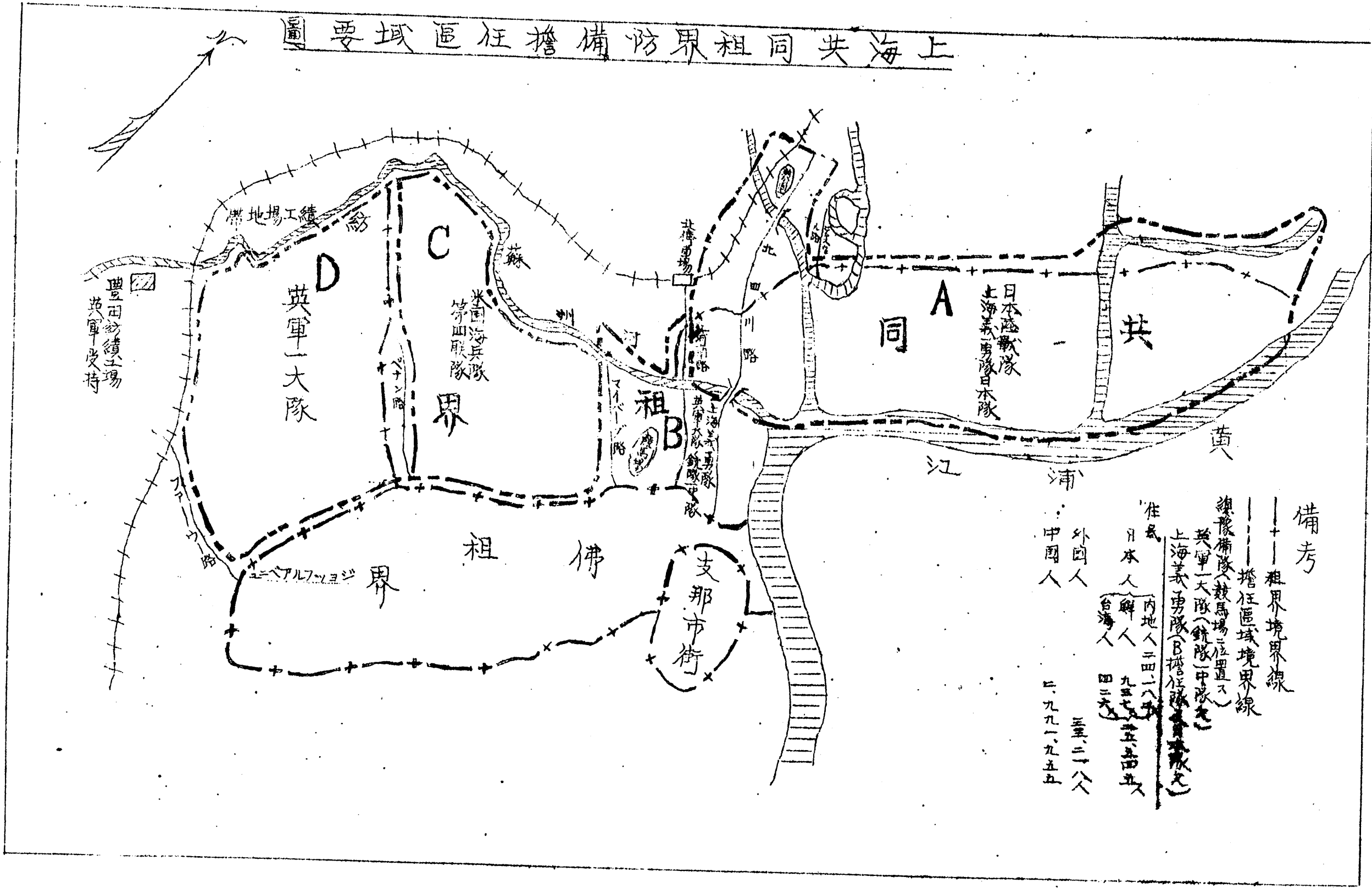
了

在上海列國兵力

昭和七年二月五日調
陸軍省調査班

		陸軍		海軍		合計														
英	<p>歩兵四大隊少將ジーン、フレミン リンコルンシャー聯隊第一大隊〔常駐(二、 ウイルトンシャー聯隊第一大隊)二一七〕 ロイヤル、スコット、フュシリヤ聯隊第二 大隊 (一月三十日交代歸還ノ所駐在) 經 アークイル、スザラント、ハイランダー ズ 聯隊第二大隊(約八〇〇) (香港ヨリ派遣二月三日上海着) 砲兵一中隊(香港ヨリ派遣二月三日上海着) 以上 約四〇〇〇名</p>	<p>海兵一、〇〇〇(増加ノ分 共) 巡艦二、砲艦二、 巡艦二(サツフオーク、ペ リツク)香港ヨリ到着 巡艦一(ケント)一ハタビ ヤヨリ到着 艦四、 (本國歸還中ノ所新嘉坡 ヨリ上海ニ引越スコト トナレリ)</p>	五、〇〇〇	米	<p>歩兵一聯隊 約一、二〇〇 歩兵第三十一聯隊 (一マニラヨリ輸送二月五日着)</p>	<p>海兵約一、二〇〇(第四聯 隊) 同 四〇〇(マニラ ヨリ輸送二月三日着) 巡艦一、(ヒューストン) (マニラヨリ増派) 砲艦七、(マニラヨリ増派) 砲艦一、艦種不明 計 一、六〇〇</p>	二、八〇〇	佛	<p>歩兵二大隊 植民地歩兵第百三大隊主力 同 第百四大隊 砲兵一小隊 戦車一小隊 歩兵一大隊(約五〇〇) 印度支那ヨリ増派中)</p>	<p>海兵 一、〇〇〇 巡艦 二、 スループ艦二、</p>	三、〇〇〇	伊	<p>二〇〇〇(増派中)</p>	<p>巡艦一、巡艦一、 艦一、 増派中</p>		上海	<p>一、七〇〇</p>		義勇軍	

上海租界共同防禦區域要圖



備考

—— 租界境界線

—— 擔任區域境界線

● 總隊備隊(鼓馬場位置)

○ 英軍一大隊(鏡隊中隊)

△ 上海義勇隊(B擔任隊)

在區

内地人 二四一八

日本人 九三七

朝鮮人 五五四

台灣人 四二六

外國人 三三二八

中國人 二九九一九五五

4

哈爾賓占據の經過概要

(参考)

昭和七年二月十五日
陸軍省新聞班